

歴史委員会の庭園見学会の報告に代えて

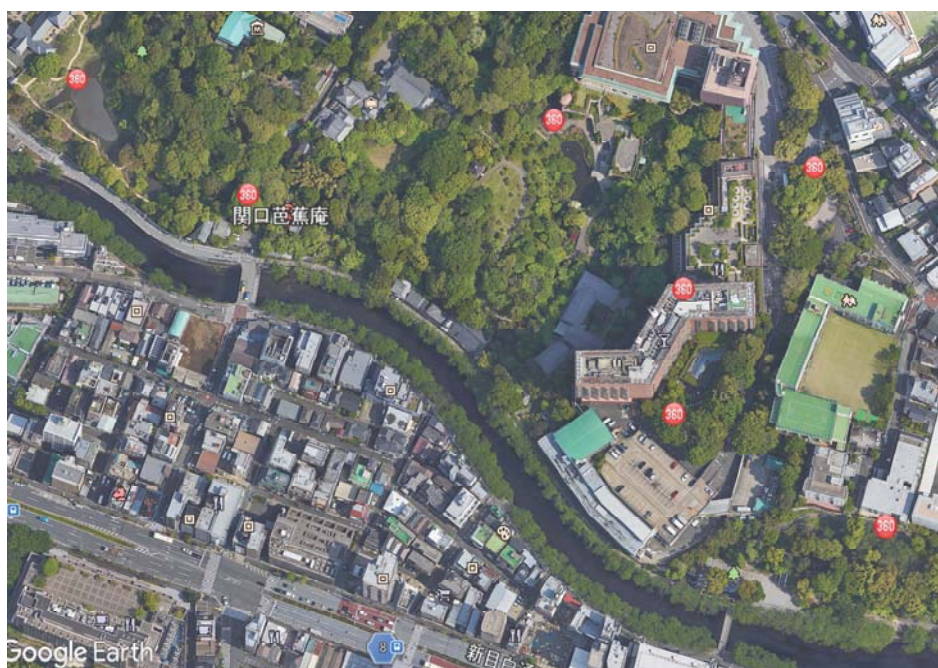
- ・実施日：2019年6月19日(水) 13:00～ 晴れ
- ・参加者：須長、犬塚、小沼、中澤、鈴木様（建築資料研究社）
- ・見学実施コース：史蹟関口芭蕉（東京都文京区関口2-11-31）→旧肥後細川庭園→椿山荘→大隈庭園（今回は関口芭蕉庵での資料をメモして見学会の報告に代えます）

関口芭蕉庵：

江戸の俳聖松尾芭蕉が、当時34歳の頃、のちに深川芭蕉庵に住みつ়くまでの4年間、1677年～1680年（延宝5年～8年）旧主筋の藤堂家が神田上水の改修工事を行っていたが、芭蕉もこの地「竜隠庵」に居住して土木工事の監督に従事していたので、その後「関口芭蕉庵」と呼んでいるとの事。大正5年、東京府の指定史跡に編入された。

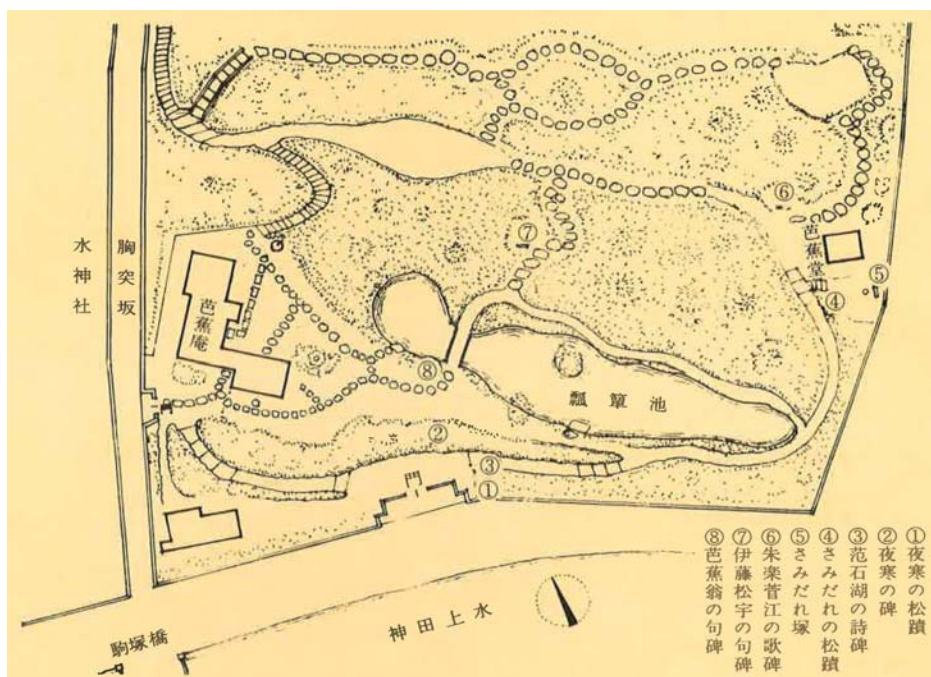
江戸名所図会等にも紹介されている建物などは、昭和13年焼失後、同年復旧するも昭和20年5月戦災で焼失、昭和25年新築されているが、現在も駒塚橋や神田川の対岸から望む風景には、江戸の面影をもとどめ、風情が感じられました。

2019年現在の関口芭蕉庵付近 ゲーグルアースより



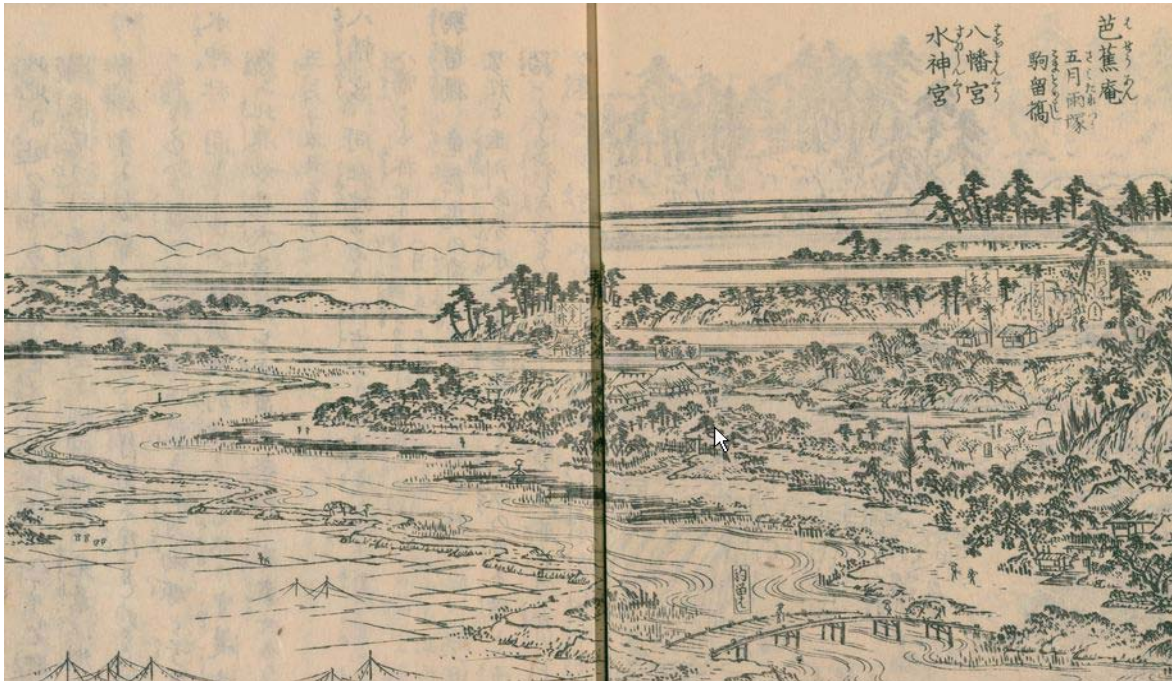
- ・関口芭蕉庵の手前が神田川
- ・芭蕉庵へと川にかかる駒止橋（現在の名は駒塚橋）
- ・右下流に架かる橋が大洗堰
- ・芭蕉庵の左に水神社（八幡宮を含む）
- ・水神社の左横に肥後細川庭園（江戸時代の細川家下屋敷）
- ・芭蕉庵の背後は、野間記念館
- ・右後方の山全体には、椿山荘
- ・この辺り一帯を椿山と呼んだそうです。
- * 駒塚橋を戻り、神田川の対岸から川越しに芭蕉庵を中心に左右に山全体を眺めると、江戸の面影も浮かびます。特に新選東京名所図会と比較しながら眺めると良くわかります。

関口芭蕉庵 敷地平面図 出典：史蹟関口芭蕉庵保存会発行 案内記より



- ・現在の正門は、江戸名所図会や、新選東京図会、名園五十種にもなく、近年のものか？この門からは入れずに、左横の芭蕉庵近くの脇門から入る
- ・脇門から芭蕉庵、さらに瓢箪池へと続く飛ぶ石は、古さを感じます
- ・瓢箪池に掛る橋は、六方石を橋の柱、橋桁に利用していて、いわば六方石の石橋の様相です
- ・よく見ると、池の護岸も六方石でした。細長い六方石を無造作に使っています
- ・瓢箪池の上方は、現在では通行止め、芭蕉堂などは見られないのが残念です
- ・芭蕉庵の北西は、胸突き坂と表裏になっていて、厚みのある大谷石の擁壁で見ごたえがあります

江戸名所図会 芭蕉庵（五月雨塚、駒留橋、八幡宮、水神社） これらは現在の地図でも確認できます



(* 江戸名所図会、江戸名所百景、新選東京名所図会、名園五十種等の資料は須長委員長が配布してくれました)

江戸名所図会（四）にある芭蕉庵付近の説明文

おおあらいげき
大洗堰：

目白の崖下^{がけ}にあり。承応年間（1652年から1655年）、厳命により、当国多摩郡牟礼村井頭の池水^{いのかしら}をして、江戸大城の下に通ぜしむ。その頃この地に堰^{せき}を築かせられ、その上水の余水を分けられる*。天明6年（1786年）の洪水に堰崩れたり。ここに於いて再び堅固に築かせられ、古^{いにしえ}より壺尺ばかりその高さを減ず。故に水嵩む時は、その上をこえて流れおつる故に、損ずる患いなしといへり。

*（承応2～3年（1653年～54年）に行われた玉川上水工事。羽村で多摩川の水を取り入れ井之頭池から出る神田上水の南をほぼ並行して流れ、高井戸を経て内藤新宿の大木戸に至り、その先は石樋で地下を四谷見附に達し、一つは江戸城内に流し、一つは赤坂をへて京橋以南の諸町に給水した。大洗堰は玉川上水工事とは直接関係ない。

りゆうげんあんあん
竜隠庵：（大洗堰と）同じ所上水掘野端にあり。昔は真言宗にして安楽寺と号す。
幕末ごろにはすでに芭蕉庵と呼ばれていた。庭園内にはほかに芭蕉堂がある

水神社：（大洗堰と）同じ所に並ぶ。竜隠庵別当たり。上水の守護神を祀らん為に・・・。

八幡宮：同じ社地にあり。古よりの鎮座という。下の宮と称し、椿山八幡とも称す（昔は椿多かりし）

駒留橋（現在は駒塚橋）：竜隠庵の前、上水の流れに架す。この水流は神田の上水なれど田万川の分水の落合にして・・・。

その他の資料

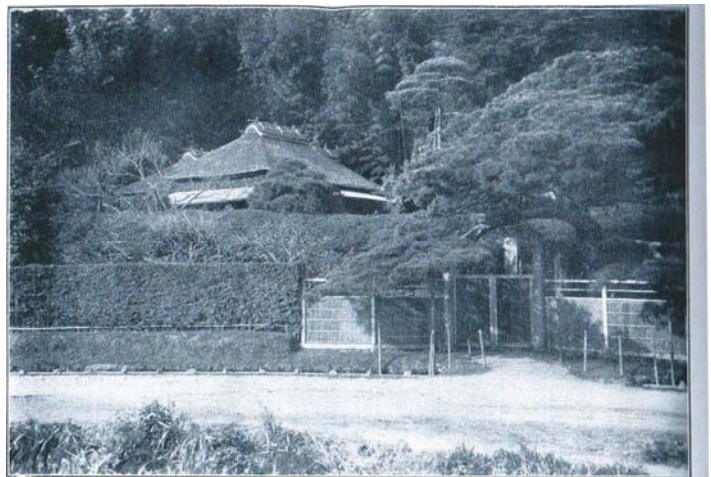
江戸名所百景の内

40「せき口上水 水端はせを庵 椿やま」

新選東京名所図会より



明治初期の 関口取水堰(犬塚氏提供)



名園五十種 内 田中伯爵の芭蕉庵

『名所江戸百景』は、浮世絵師の歌川広重が安政3年(1856年)2月から同5年(1858年)10月にかけて制作した連作浮世絵名所絵です

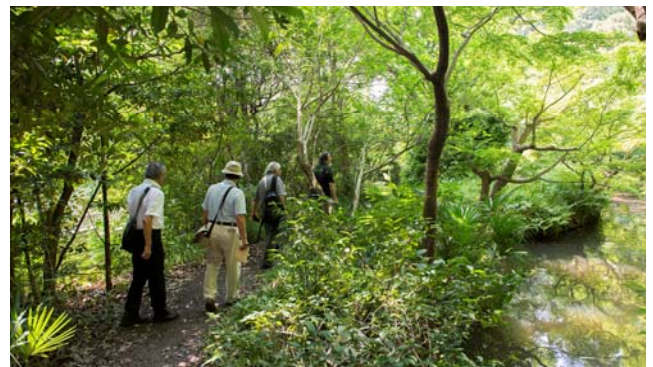
『新選東京名所図会』は、雑誌「風俗画」時創刊として明治29(1896)年9月から明治42(1909)年3月にかけて刊行されている。全64編で第58編以降は「大日本名所 図会」というシリーズ名に変更されている。

『名園五十種』. 近藤正一編. 博文館, 1910.8 国会図書館デジタル版あり

芭蕉庵の門前にて記念撮影(鈴木さん撮影)



芭蕉庵の瓢箪池付近を散策中(鈴木さん撮影)



*鈴木さん写真ありがとうございました。

*参加者の皆さん、反省会を含め大変お疲れ様でした(20190701 中澤 記)